

平成 24 年度第 2 回建築学教育 FD/ICT 活用研究委員会議事概要

- I. 日時：平成 24 年 7 月 23 日(月)16:00～19:00
- II. 場所：公益社会法人私立大学情報教育協会事務局・会議室
- III. 出席者：衣袋委員長、澤田委員、前田委員、真下アドバイザー、関口アドバイザー
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 議事概要

今回の検討事項は、学士力実現に求められる教育改善モデルの検討の内の、教育改善モデルを実施するために必要な教育力の具体化であるが、それに先だって教育改善モデルに関する遡った検討を行った。その結果を踏まえて教育力の具体化（【1】専門性、【2】教育力、【3】FD 活動と大学としての課題）を検討した。

1. 建築学教育における教育改善モデルの再検討

従来案と改訂版を比較しつつ、教育改善モデルを修正した。主要な修正点は以下の通りであり、修正案が配布された。

- ・ 学士力の到達目標 4 に協働する分野を明示することにして、建築学の体系的な知識や技能をもとに、計画・構造・環境・生産・材料などの各分野と協働して建築作品にまとめることができる。に変更をした。到達度 3 については他分野の明示を削除することにした。
- ・ 授業のねらいにおいて、約束事に従った線の描き方、美しい線の描き方、単なる作品のコピー及び美しい空間・形態に重点が置かれとしていた。現状の授業の問題点と改善の方向性を社会及び建築業界が教育機関に求めていることを明確にし、建築実体化における説明対象者の施主、周辺住民、施設利用者等を明示した。
- ・ 授業の点検・評価・改善については、教員間で評価シートを用いた意見交流とファシリテーターの意見をもとに授業方法の改善策を検討することにした。
- ・ 授業運営上の問題及び課題を、横断型の協働学習の制度化、産学連携等でのセキュリティの柔軟な運用・管理、BIM ツール等の利用できる環境の構築を挙げた。

2. 建築学教員の教育力の検討

- ・ 【1】建築学教員に期待される専門性について、前回の委員会で検討したイノベーションと主体性の説明を分割して 5 項目を 6 項目とし、教育に対する姿勢、研究的専門性、学生の教育的視点の順に並べ替えた。
- ・ 【2】教育力について、振り返りの場の項目を整理し、3 次元モデル化の利用、プロジェクト実践の意義、学内外との協力、それぞれの内容の明確化を図った。
- ・ 【3】FD 活動と大学としての課題について、【2】の教育力の各項目に対応して FD 活動について、授業とカリキュラムの整合性、研究報告会への参加で教員同士の教え合い・学び合い、ワークショップの実施、専門家招いた研究会の実施の 4 項目を挙げた。
- ・ 大学としての課題について質保証が担保できる取り組み、教員間・産学連携へ制度および財政的な支援、ICT 教育手法への支援組織の 3 項目を挙げた。

V. 次回の開催日程

- ・ 日時：平成 24 年 8 月 29 日(水)10 時～12 時